

旭化成株式会社 守山製造所

〔団体について〕

旭化成（株）守山製造所では、工業用水として井戸からくみ上げた地下水を利用しています。間接冷却水として使用した地下水は、地域の農業用水として供給しています。このような事業、生物多様性（水）と地域との関わりを踏まえて、水に関わる特色のある生物多様性保全活動に取り組んでいます。

【これまでどんな取組をしましたか？】

事業所の敷地内にビオトープを整備し、過去、この地に生息していた絶滅の恐れがある淡水魚「ハリヨ」や、水辺環境の指標種である「トンボ」の保全活動を、滋賀県立琵琶湖博物館や地域と連携し取り組んでいます。



ビオトープ“もりビオ”

【どのような課題を感じていますか？】

守山製造所が保全に取り組むハリヨは滋賀県内でも個体数の減少や、遺伝子の攪乱が見られます。行政や地域の理解を得ながら、自然とそこに棲む生き物の保全に取り組む必要があります。



もりビオで生まれたハリヨ

株式会社グリーンディスプレイ「オチャノキプロジェクト」

【団体について】

株式会社グリーンディスプレイは、お茶の需要低下・高齢化・過疎化などによって休耕地となり手付かずの伸びきった茶畑のオチャノキに新たな価値を生み出し、人と自然の繋がりを見つめ直すため様々な活動に取り組んでいます。オチャノキを使うことで休耕地を更地にし、空いた土地を地元の方に有効に使って頂き里山に還元することを目指しています。 [instagram@ochanoki_project](https://www.instagram.com/ochanoki_project)



オチャノキ
プロジェクトHP

【これまでどんな取組をしましたか？】

プロジェクトにご賛同頂いた商業施設、飲食店、ホテルへ植栽景觀としてオチャノキを納品してきました。

現在は静岡県掛川市を中心に活動していますが、日本全国の茶畑やお茶に限らず、休耕地の植物に目を向けてこのプロジェクトに協力して頂ける方をSNSやメディアを活用して募集しております。



【どのような課題を感じていますか？】

畑を更地にするにはオチャノキをコンスタントに使っていく必要があります。

オチャノキを使いたい！というファンを増やしていくためにメディアやSNSなどを使ってこのプロジェクトのことを広く知って頂きたいです。

また、ただ土地を空けて終わりではなく、再活用方法について一緒に考えていかなければなりません。

中越パルプ工業株式会社

【団体について】1947年創業の総合紙パルプメーカーです。
印刷用紙、情報用紙、包装用紙、新聞用紙、板紙など、あらゆる原紙を製造しています。
持続可能な社会に向けて、未来の新素材セルロースナノファイバーも製造開発しています。



中越パルプ工業



MEETS
TAKEGAMI

【これまでどんな取り組みをしてきましたか？】 日本の竹100%でつくる紙「竹紙」 本業の紙づくりで、社会的課題の解決に挑戦



全国に広がる放置竹林は、竹の使い道がないことが原因のひとつです。本来、製紙原料にも不向きです。当社川内工場（鹿児島）では、竹林整備で伐採された竹を、年間2万トン近く活用。日本の竹消費量の半分以上を担っていると推測されます。持続的に購入することで、里山に新たな価値を創出しました。隣接する森林や里山の保全、生物多様性保全に役立ち、さらには地域経済にも大きな貢献を果たしています。



【どのような課題を感じていますか？】
竹紙の取組は、社会的課題をジブンゴト化して解決した好事例です。多くの人に知ってもらい、新たなソーシャルグッドを期待しています。竹紙文具はノベルティに、短冊や折紙はワークショップに活用することで、みなさまと共に活動したいです。

中越パルプ工業株式会社

〔団体について〕

1947年創業の総合紙パルプメーカーです。

印刷用紙、情報用紙、包装用紙、新聞用紙、板紙など、あらゆる原紙を製造しています。
持続可能な社会に向けて、未来の新素材セルロースナノファイバーも製造開発しています。



【これまでどんな取組をしましたか？】

日本の森と里山を守る紙「里山物語」

本業の紙づくりで、社会的課題の解決に挑戦



森林認証紙とは異なる、日本のための環境対応用紙です。

①間伐材100%の活用で、日本の森林を保全

長年の業界一の間伐材活用経験を活かし、他に類を見ない間伐材100%の紙を真摯な換算値のクレジット方式で提供しています。

②代金に含む寄付金で、里山を保全

NPOと協業して、里山で持続的な活動をする団体を支援することで、里山保全＝生物多様性保全を図ります。

これまでの印刷用紙を「里山物語」に変えるだけで、社会に役立ちます。



【どのような課題を感じていますか？】

日本の国土に寄与する、他に類を見ない環境対応紙です。

「里山物語」は、国連が定めた「国際生物多様性年」である2010年の前年に、生物多様性保全に役立つ仕組みを構築した印刷用紙です。書籍、雑誌、報告書等に活用されています。
多くの企業や団体に採用いただき、みなさまと共に、里山の活動を応援したいです。

石川県生活環境部温暖化・里山対策室

【団体について】

石川県は石川県生物多様性戦略ビジョン（平成22年策定）に基づき、人の手が加わることにより、生き物にやさしい自然環境が維持されるという里山里海の本来の特性を踏まえ、新たな価値の創造や、多様な主体の参画による施策を通じ、多様な生き物が生息・生育する里山・里海を未来に継承し、持続可能な社会の構築を目指しています。



石川県
温暖化・里山対策室HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

幼少期からの自然とのふれあいの推進や、保育士等への自然体験型環境教育の普及・定着を図ることを目的として、里山の自然体験プログラムやその見学会、職員研修会を実施している。



インストラクターと保育園との自然体験プログラム実施のようす

【どのような課題を感じていますか？】

参加園の貴重な経験となり、環境教育に興味を持つきっかけになっている。一方で、園独自で実施していくには、知識・経験やスタッフの不足により困難との声もあり、知識の定着の必要性を感じている。



インストラクターと保育園との自然体験プログラム実施のようす

石川県生活環境部温暖化・里山対策室

【団体について】

石川県は石川県生物多様性戦略ビジョン（平成22年策定）に基づき、人の手が加わることにより、生き物にやさしい自然環境が維持されるという里山里海の本来の特性を踏まえ、新たな価値の創造や、多様な主体の参画による施策を通じ、多様な生き物が生息・生育する里山・里海を未来に継承し、持続可能な社会の構築を目指しています。



石川県
温暖化・里山対策室HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

企業、地域団体、NPO、学校などが行う里山里海保全活動などの取り組みを県が認証し、認証団体に対して、活動のための専門家派遣や道具貸出等の支援を行っています。加えて、メール・Facebookによる情報発信やポスター交流会の開催、事例集の作成等によって、団体間のネットワーク化を促進していきます。



ポスター交流会のようす



いしかわ版里山
づくりISO事例集
(Vol.5) の表紙

【どのような課題を感じていますか？】

認証団体の高齢化や後継者不足による活動の縮小に伴い、他団体との連携・協働が困難になってきています。そのため、これまで以上に県民に里山里海保全に対する理解を深めてもらい、より多くの団体に参加してもらうことが必要と感じています。

福井県安全環境部自然環境課

【団体について】

福井県は県土の約8割を森林や里地里山里海湖が占めており、自然の恵みを享受する人の暮らしがあります。今、失われつつある人と自然との共生関係を再認識し、持続可能な自然環境の利用と次世代への継承を目的にさまざまな活動をしています。



福井県自然環境課HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

里地里山里海湖で希少種の保全に取り組む自然再生団体への、補助事業を行っています。生息に適した環境の維持や、外来種駆除などの活動費を補助し、希少種保全活動を支援しています。



小学生との環境学習のようす



小学生との環境学習のようす

【どのような課題を感じていますか？】

補助対象条件として、小学生への環境教育を活動に含めることになっていますが、コロナ禍で学校の活動も制限され、学校教育との連携が困難になっていると感じます。

福井県安全環境部自然環境課

〔団体について〕

福井県は県土の約8割を森林や里地里山里海湖が占めており、自然の恵みを享受する人の暮らしがあります。今、失われつつある人と自然との共生関係を再認識し、持続可能な自然環境の利用と次世代への継承を目的にさまざまな活動をしています。



福井県自然環境課HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

地元自治体や住民と連携し、里山里海湖での外来種駆除活動を行っています。

令和3年には、三方五湖でアカミミガメの駆除を、北潟湖でオオキンケイギクの駆除を行いました。



オオキンケイギク駆除活動のようす



アカミミガメ駆除活動のようす

【どのような課題を感じていますか？】

一度の外来種駆除では効果が見えにくく、どのように参加者のモチベーションを維持していくか、課題を感じています。

三方五湖自然再生協議会

【団体について】

三方五湖は、福井県若狭町・美浜町にまたがる5つの湖の総称です。三方五湖の自然は、私たちに、食料、農業や漁業、文化など豊かなめぐみをもたらしてきました。ところが近年、豊かだった三方五湖の自然環境は、急速に損なわれてきています。そこで、三方五湖周辺流域および地域において、多様な主体（地域住民、研究者、各種団体、行政等）によって自然再生を実現するため、平成23年5月に三方五湖自然再生協議会（事務局：福井県・美浜町・若狭町）を設立しました。

【これまでどんな取組をしましたか？】

6つの部会を設け、相互に連携しながら、三方五湖での自然護岸の再生や水田養魚の取組拡大推進、外来生物対策、環境にやさしい農法の普及、環境教育、シジミの生息環境整備などに取り組んでいます。市民参加型のモニタリング調査等も行っており、地域全体での自然再生を目指しています。



水田に稚魚を放す様子

【どのような課題を感じていますか？】

協議会に参加している地域住民は一部にとどまっており、協議会の取組を知らない地域住民も多いため、よりたくさんの地域の方に協議会を知ってもらい、参加していただく仕組みづくりが必要だと感じています。



ホームページ



環境にやさしい
農法認証制度のPR

松本市環境エネルギー一部環境・地域エネルギー課

[団体について]

松本市は、3,000m級の高山や、そこから流れる水系の源流域を有し、草原・里山・湧水・農地・市街地などの多様な環境が存在します。松本市生物多様性地域戦略「生きものあふれる松本プラン」（平成28年策定）に基づき、生物多様性に関わる問題や課題に対応し、地域固有の財産として守り、活かしていくために、様々な活動を行っています。



松本市環境・地域エネルギー課HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

希少種の保護活動として、専門家と協力しながら、里地里山エリアの希少種ゴマシジミの生息状況を毎年調査している。



ゴマシジミ



調査場所の一例

【どのような課題を感じていますか？】

保護に向けて、ゴマシジミの生態や食草への配慮等の保護に対する地域住民の理解の浸透を行う必要性を感じている。

松本市環境エネルギー一部環境・地域エネルギー課

[団体について]

松本市は、3,000m級の高山や、そこから流れる水系の源流域を有し、草原・里山・湧水・農地・市街地などの多様な環境が存在します。松本市生物多様性地域戦略「生きものあふれる松本プラン」（平成28年策定）に基づき、生物多様性に関わる問題や課題に対応し、地域固有の財産として守り、活かしていくために、様々な活動を行っています。



松本市環境・地域エネルギー課HP

【これまでどんな取組をしましたか？】

市民の皆さんに、松本地域の自然に親しみ、環境や生物多様性への意識や関心を持っていただくきっかけづくりとして、環境学習講座エコスクールを開催している。

エコスクール
観察会のようす
(川の生きもの観察会)



【どのような課題を感じていますか？】

一部の興味ある市民の方からの応募による参加募集のため、参加者の方の生物多様性への関心の高まりは感じるが、無関心層を含む市民全体への生物多様性の啓発にはつながりにくい。



エコスクール
観察会のようす
(ホタル観察会)

旭化成住工株式会社

〔団体について〕

当社が立地する滋賀県東近江市には、かつて溜池や水田、雑木林などの里山環境が広がる豊かな水辺生態系があり、水利や防災など溜池を中心とした暮らし・文化があったと考えられます。この溜池を一部復元、地域に生息するいきものを保全し、観察会で地域住民にその大切さを伝えています。



ホームページ

【これまでどんな取組をしましたか？】

事業所内に創出した『湯屋のハーベルビオトープ』を活用して、地域の希少種 ヨツボシトンボの保全や、近隣小学校と連携し、夏休みや工場秋まつりを利用して、専門家の指導によるいきもの観察会を実施しています。



事業所内に創出した湯屋のハーベルビオトープで羽化したヨツボシトンボ



当社秋まつりにおけるいきもの観察会の様子
(湯屋のハーベルビオトープにて)

【どのような課題を感じていますか？】

コロナ禍により、秋まつりや観察会の開催が出来ない状況が続いています。

生物多様性びわ湖ネットワーク

【団体について】

生物多様性びわ湖ネットワークは滋賀県に拠点をもつ企業が連携し、地域の様々な団体と連携の輪を広げながら、滋賀県の生物多様性の保全に貢献する団体です。昨年度、日本自然保護大賞2021大賞（教育普及部門）を受賞しました。

【これまでどんな取組をしましたか？】

環境指標となる「トンボ」をテーマに、調査・保全・発信の3つのアクションで、楽しみながら滋賀県の生物多様性の保全活動を展開しています。

主な活動：トンボ調査、ビオトープ保全、活動展示、観察会、情報交換会 など



伊吹薬草の里文化センター展示会



他の環境保全団体様との合同調査及び
意見交換会

【どのような課題を感じていますか？】

コロナ禍により、観察会などの活動が制限され、これまでのように多くの方に参加頂くことが困難となりました。また、展示会などのイベント内容も感染防止を考慮すると断念しないといけないものもあり、結果縮小となることが多くあります。

積水樹脂株式会社

〔団体について〕

積水樹脂は大阪に本社を置く、交通安全用品や建設資材を中心とした総合資材メーカーです。主要工場である滋賀工場には貧栄養湿地が多く残存しており、2015年の生きもの調査では33種の絶滅危惧種を含む300種を超える動植物を確認する自然豊かな事業所です。

【これまでどんな取組をしましたか？】

事業所内に環境保全エリアを設定し、ハッチョウトンボをはじめ生態系の保全に取り組んでいます。また、その環境を利用し、地域や従業員の家族を対象とした自然観察会なども実施しています。自治体や地域企業との連携による生物多様性の普及や環境保全活動にも積極的に取り組んできました。



自然観察会の様子



琵琶湖のヨシ刈りの様子

【どのような課題を感じていますか？】

コロナ禍により、観察会などのイベント活動や地域連携による社会貢献活動が中止になるなど、これまで取り組んできた活動の継続が困難となりました。

国連大学 国連生態系回復の10年 (UN decade on Ecosystem Restoration)

2021-2030年は、国連生態系回復の10年です。これは第73回国連総会にて採択されたもので、生態系には農地の生態系も含まれています。国連生態系の回復の10年は、生態系回復のための資金確保や科学研究の実施、既存計画への生態系回復の組み込み、生態系の劣化防止のための計画策定、既存の生態系回復事業の強化、経験や優良事例の共有促進を奨励しています。

<https://www.decadeonrestoration.org> <https://www.facebook.com/unep> <https://www.instagram.com/unep/>

生態系回復の10年は、人口減少を逆手にした創造的な地方創生、都市再生、里山や人と自然の繋がりの再生、人間的で豊かな暮らしや良好な子育て環境の創出、持続可能な社会づくりにも貢献する雇用の創出、生態系を活用した減災の推進、など日本の各地域でのさまざまな課題への貢献が期待されます。



UNITED NATIONS DECADE ON
**ECOSYSTEM
RESTORATION**
2021-2030



生態系回復は、
さまざまなSDGsに
貢献します。

SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) の事務局を担っている国連大学は、国連生態系回復の公式パートナーとなるための申請を進めています。また、SATOYAMAイニシアティブと生態系回復に関するさまざまな事業を実施しています。

<https://satoyama-initiative.org/ja/>
#GENERATIONRESTORATION

特定非営利活動法人 環境修復保全機構

【これまでの取り組みは？】

タイ・カンボジアを拠点に、日本からボランティアを派遣し、国際NGOが取り組む植林活動地の視察や植林体験、現地学生との研修会を実施してきました。

【どんな工夫をしましたか？】

オンラインによる植林ボランティア研修を開催し、日本の学生と現地の学生がバディーを組み、現地からのライブ配信による植林地視察、専門家による講義、現地職員との意見交換、活動風景を収録したビデオ鑑賞等を通し、
現地の雰囲気を感じていただきました。



【団体について】

環境修復保全機構（ERECON）は、カンボジアとタイを中心にアジア諸国における「農業的・都市的開発と自然環境との調和」を目指した環境修復保全に取り組んでいます。また、環境教育啓発の活動を通して、現地の人々が自然資源を持続的に利用していけることを目的として活動しています。



【どんな効果がありましたか？】

5日間の研修最終日には、「森林再生促進を目指した持続可能な森林管理のためのアプローチ」をテーマに、様々な視点からアクションプランを発表し、「人と自然との共生の在り方」や「持続可能な開発」についての議論を深めると共に、国際緑化活動の重要性について理解を深めました。

株式会社グリーンディスプレイ 「オチャノキプロジェクト」

【これまでの取り組みは？】

プロジェクトにご賛同頂いた商業施設、飲食店、ホテルの他に、お茶にまつわるイベント会場にオチャノキをディスプレイしたり、オチャの葉っぱでレイを作るワークショップを開催しました。

【どんな工夫をしましたか？】

新茶の季節にお茶屋さんとコラボしてオンラインイベントを開催しました。その他に、メディア向けの取材イベントを開催するなどプレスリリース・SNS・WEB雑誌を活用し多くの方の目に触れて頂けるよう露出を強化しました。

【団体について】

お茶の需要低下・高齢化・過疎化などによって休耕地となり伸びきった茶畑のオチャノキに新たな価値を生み出し、人と自然の繋がりを見つめ直す様々な活動に取り組んでいます。オチャノキを使うことで休耕地をまっさらにし、空いた土地を地元の方に有効に使って頂き里山に還元することを目指しています。



The image shows a screenshot of a social media post on the left and a video conference grid on the right. The social media post features a photo of three women standing in front of a tea plantation, with text in Japanese and social media icons. Below the photo are QR codes for HP, Instagram, and youtube.

【どんな効果がありましたか？】

プレスリリースを配信したり、外部WEBメディアに紹介して頂いたことで取材やオチャノキに関する問い合わせが以前より増えました。

より多くの方にオチャノキを使って頂くために、今後は皆さんのお手元に届きやすくなるよう生産・流通面を整えていく予定です。

大成建設株式会社

【団体について】
大成建設はグリーンビルディングへの配慮や人の手による自然の森再生など、すべての企業活動において「環境の保全と創造」に努め、先駆的な環境事業を推進しています。

【これまでの取り組みは？】

建設事業地内に希少動植物が生息している場合に、現地調査や専門家へのヒアリングなどを行ったうえで保全計画を立てていました。

【どんな工夫をしましたか？】

「水辺コンシェルジュ」というツールを開発しました。対象とする動植物の名前を選ぶだけで、必要な情報をわかりやすく提示し、迅速な計画策定や円滑な合意形成を図ります。

水辺コンシェルジュ 建設事業における希少動植物の保全計画ツール



保全のために必要な水辺の環境タイプを明示

選択中の地域：愛知県	環境タイプA	環境タイプB	環境タイプC	環境タイプD	環境タイプE	環境タイプF
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+
水田	+	+	+	+	+	+

【どんな効果がありましたか？】

これまでは、保全計画の検討期間に1か月程度要していましたが、本ツールによって、およそ1週間で必要な情報を提供することができ、早期の保全計画立案が可能となりました。第4回エコプロアワード奨励賞を受賞しました。



水辺コンシェルジュについて
(大成建設株式会社HP)

水辺コンシェルジュ

建設事業における
希少動植物の保全計画ツール

独自のデータベース 生物専門家の知見やノウハウをデータ化して集積

開発対象となりやすい
里山の水辺の動植物が対象



動植物を知る

保全を計画する

保全対象とする動植物の概要を把握

基本的な生態情報

動物 トウキョウダルマガエル
Phelophax porosus porosus

利用する水辺環境

池沼	湿地	河川・水辺	橋
●	●	×	×

水域の条件

流水	水位変動	洪水	止水	橋
-	×	×	●	×

代償の難易度

生活史

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

TOP | いきものを
知る | 1 選択方法を決める | 2 名前から選ぶ/地域から選ぶ | 3 基本的な生態情報

保全のために必要な水辺の環境タイプを明示

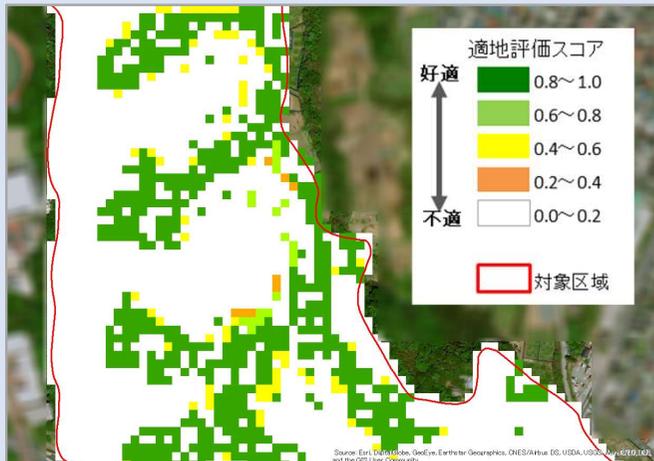
保全に必要な環境タイプ

選択中の地域: 愛知県

環境タイプ A	環境タイプ B	環境タイプ C	環境タイプ D	環境タイプ E	環境タイプ F
水田 + 樹林・草地 + 適する樹林・草地	農耕地 + 樹林・草地 + 適する樹林・草地	その他の環境	池沼 + 樹林・草地 + 適する樹林・草地	河川・水辺 + 樹林・草地 + 適する樹林・草地	河川の緩急部(崖下) + 樹林・草地 + 適する樹林・草地
アリガ	イチョウキョク	モリアオガエル	トウキョウダルマガエル	ヘッコモダカ	ゲンジボタル

TOP | いきものを
保全する | 1 保全指標生物
の選択 | 2 保
護 | 3 代償の
イメージ | 4 環境タイプ
(種別詳細) | 5 保全対策例
と配慮事項

水辺を創出する場合の適地選定



水辺整備に必要な条件を明示

代償地のイメージと環境タイプ

選択中の保全指標生物

- アマガ
- モリアオガエル
- トウキョウダルマガエル

光

日照(陸域) 日照(水域)

水

水辺の形態

水深

土質

TOP | いきものを
保全する | 1 保全指標生物
の選択 | 2 保全に必要な
環境タイプ | 3 代償地のイメージ
と環境タイプ | 4 環境タイプ
(種別詳細) | 5 保全対策例
と配慮事項

石川県生活環境部 温暖化・里山対策室

【これまでの取り組みは？】

MISIAの協力を得て、石川県内の里山里海の魅力を再発見するフォトコンテストの実施とそれに連携した形での普及啓発イベントを行っていた。

【どんな工夫をしましたか？】

多様な主体による協力を得ての大規模イベントの実施が困難となったため、これまでのフォトコンテストの応募写真や「MISIAの森」の映像を活用した生物多様性普及動画を制作、配信を行うこととした。



動画サイト

【団体について】

石川県は石川県生物多様性戦略ビジョン（平成22年策定）に基づき、新たな価値の創造や、多様な主体の参画による施策を通じ、多様な生き物が生息・生育する里山・里海を未来に継承し、持続可能な社会の構築を目指しています。



【どんな効果がありましたか？】

コロナ対策になっただけでなく、継続的な普及啓発ツールとして、石川県庁の展望ロビーや石川県森林公園でも放送し、広く県民に発信できた。
今後も普及啓発イベントにて視聴できるようにして、活用していく予定。

石川県生活環境部 温暖化・里山対策室

【これまでの取り組みは？】

MISIAの協力を得て、石川県内の里山里海の魅力を再発見するフォトコンテストの実施とそれに連携した形での普及啓発イベントを行っていました。

【どんな工夫をしましたか？】

特定の日に混雑を生じることを避けるため、長期に渡って一か所に留まらずに各自で楽しめるよう、スタンプラリーを設置しました。

スタンプも森林で見られる生物を題材にし、森林内での散策も楽しめる内容になるよう工夫しました。

【団体について】

石川県は石川県生物多様性戦略ビジョン（平成22年策定）に基づき、新たな価値の創造や、多様な主体の参画による施策を通じ、多様な生き物が生息・生育する里山・里海を未来に継承し、持続可能な社会の構築を目指しています。



【なぜこのような取り組みを考えたのですか？】

これまでの特定の日に一か所に集まり何かを体験するようなイベントの実施が困難な中で、いつでも森林内を散策しながら楽しめるような仕掛けを設置し、気軽に子供連れで多様な生き物を観察できるようなきっかけを作りたいかったため。

環境ふくい推進協議会

〔団体について〕

環境保全活動に取り組む人々の自発的な活動の推進母体として、環境保全にかかる県民、団体、企業のネットワークづくりおよび地域に根ざした活動の育成と、継続的かつ着実な環境保全活動の推進を図っています。

【これまでの取り組みは？】

会員の活動を対象とした表彰制度、自治体や環境保全団体の活動への助成制度、セミナーや体験イベントの開催、普及啓発活動を行ってきました。

【どんな工夫をしましたか？】

「コロナ禍だからこそ困っていること」に焦点を絞り、環境保全活動を継続するための、「オンライン環境向上支援事業」を設立しました。

【なぜこのような取り組みを考えたのですか？】

新型コロナウイルス感染症拡大により、活動が制限されてしまった団体へアンケートを行ったところ、オンライン環境整備やその活用に課題を感じている団体が多く、支援が必要と考えました。

オンラインで
打ち合わせをしたい

こんなときだから

オンラインで
活動のPRをしたい

「オンライン環境」

整えませんか?

～「新しい生活様式」に対応した活動への助成金 ご案内～

【対象】 団体会員、企業会員

【助成内容】 ①オンライン活動に必要な機器などの購入費用の1/2
②オンライン活動に必要な機器などのレンタル費用の全額
※①、②ともに10万円が上限

★ 助成対象となる機器 ★

* Webカメラ	* Webスピーカー	* ヘッドセット
* 無線LAN機器(親機、子機)	* ビデオカメラ	* パソコン
* タブレット	* スマートフォン	など

・事務用のパソコン、タブレット端末、スマートフォンなど、汎用性があり、目的外使用にない得るものは除きます。
ただし、「オンライン環境の整備」に関する経費については対象とします。
・既に購入・レンタルしてしまったものは対象外です。
・詳細は、チラシの裏面と助成要領をご確認ください。

募集期間: 令和3年7月2日(金)～令和4年1月31日(月)

環境ふくい推進協議会

申請先
問合せ先

TEL 0776-20-0301

住所 〒910-8580 福井市大手3-17-1
(福井県庁・環境政策課内)

URL <http://www.kankyou-fukui.jp/>

MAIL kankyou@pref.fukui.lg.jp



協議会FBページ
イベント情報など
随時発信中!

福井県海浜自然センター

【団体について】

福井県若狭町で「うみ（海湖）の学びと癒しの新空間」をコンセプトに、若狭湾や三方五湖の豊かな自然を守り育てていくための体験講座や展示を行っています。

【これまでの取り組みは？】

センターに訪れた人を対象に、ビーチクラフト体験を行っていました。



【どんな工夫をしましたか？】

一か所に集まっての体験ができなくなったため、おうち時間に楽しめるよう、クラフト体験のキットの販売を始めました。

【どんな効果がありましたか？】

コロナ対策になっただけでなく、お土産としても評判がよく、施設外でもうみの環境について考えてもらえるきっかけになりました。今後、ラインナップを増やしていく予定です。

生物多様性びわ湖ネットワーク

【団体について】

滋賀県に拠点をもつ企業が連携し、地域の様々な団体と連携の輪を広げながら、滋賀県の生物多様性の保全に貢献する団体です。現在は、環境指標種と言われる『トンボ』を共通テーマに活動しています。

【これまでの取り組みは？】

博物館での活動展示や観察会などを中心に情報発信を行っていました。

【どんな工夫をしましたか？】

ヤゴの生態展示や観察会を実施することが出来なくなったため、Instagramを活用してトンボのフォトコンテストやトンボ図鑑の公開で情報発信を行いました。



【どんな効果がありましたか？】

2020年度のフォトコンには300点を超える応募があり、多くの方にトンボに関心を持ってもらうきっかけ作りができました。

【どんな課題がありますか？】

トンボ図鑑は、子どもにも分かりやすい説明にしなければいけないと感じています。